

第 2 2 回会津坂下町新庁舎建設検討委員会 次第

と き 令和 8 年 1 月 8 日（木）午後 3：00～
ところ 会津坂下町役場 3 階 大会議室

1. 開 会

2. 町長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 報告事項

（1）前回委員会意見に対する回答・・・資料 1

5. 協議事項

（1）基本計画（案）について・・・資料 2
資料 3

（2）複合施設化の検討・・・資料 4

（3）その他

6. その他

7. 閉 会

12/15検討委員会での意見に対する回答

	意 見 内 容	回 答
1	複合施設化や、別建てでホールを造る場合に、有利な補助金や交付税はあるのか。	どちらの場合も過疎債が該当すると思われます。
2	設計のプロポーザルでは、鉄筋コンクリートに限定せず、木造も含めて採用を検討してほしい。	構造を限定しない、あるいは木造に限定したプロポーザルの実施を検討しています。
3	懇談会や説明会など、町民の意見を取り入れる場を設けてほしい。	基本計画（案）が完成しましたら、町民説明会を実施します。中央公民館で3回程度実施する予定です。また、説明会の実施に合わせて、HPにて2週間程度意見募集を行う予定です。
4	基本計画にあるZEBなど専門性のある言葉には、脚注を入れてほしい。	今回の修正で脚注を追加しました。他に分かりにくい部分がありましたら、随時ご指摘ください。
5	基本計画「6. 基本性能と導入機能」のなかに、文化や風土、歴史をコンセプトとして含んだ役場機能といった項目を入れるべきではないか。	基本計画に反映します。
6	基本計画のなかに、SDGsという言葉を入れて説明する部分を入れたほうがいい。	

ページ	項 目	修 正 内 容
p.9	2. 現状と課題の整理・ 新庁舎の必要性	（3）各種計画との関連性について、④と⑤を正式名称に修正
p.33	6. 基本性能と導入機能	基本方針④（1）コストの低減（長寿命化）について、ZEBとZEB Readyの脚注を追加
p.34	6. 基本性能と導入機能	基本方針④（1）コストの低減（長寿命化）について、太陽光発電等の活用の文章を追加
p.34	6. 基本性能と導入機能	SDGsに関連付けた文章とその脚注を追加
p.38	7. 新庁舎の建築計画	（2）配置計画の①配置計画の比較について、表を修正
p.53	10. 事業方式と事業スケジュール	（5）事業スケジュールの表について、基本計画策定期間を延長、地質調査を削除、基本設計の開始を6月想定に変更

会津坂下町新庁舎建設
基本計画(案)
修正・協議箇所抜粋版

会津坂下町

<目 次>

1. はじめに	※
(1) 新庁舎建設の検討の背景	※
(2) 基本計画の位置付けとこれまでの経過	※
2. 現状と課題の整理・新庁舎の必要性	※
(1) 現庁舎の現状と課題	※
(2) 新庁舎整備の必要性	※
(3) 各種計画との関連性	※
3. 基本理念と基本方針	※
(1) 基本理念	※
(2) 基本方針	※
4. 新庁舎等の規模	※
(1) 基本的な考え方	※
(2) 規模算定	※
(3) 新庁舎に必要な規模	※
(4) 駐車場・駐輪場の規模	※
5. 建設地の選定と今後の課題	※
(1) 建設候補地の比較	※
(2) 建設地の選定	※
(3) 建設地の今後の課題	※
6. 基本性能と導入機能	※
基本方針① 町民の安全を守る防災拠点としての庁舎	
(1) 防災等拠点機能（構造計画含む）	※
(2) 駐車場・駐輪場等	※
基本方針② 来庁者に優しい便利でわかりやすい庁舎	
(1) 窓口、住民サービス機能	※
(2) ユニバーサルデザインの採用	※
基本方針③ 効率的で利用しやすい行政機能を備える庁舎	
(1) 防犯・セキュリティ機能	※
(2) 執務機能および執務環境	※
(3) 福利厚生	※
基本方針④ 経済性に優れた庁舎	
(1) コストの低減（長寿命化）	※
(2) 負荷の軽減	※

基本方針⑤ 町民が集い賑わいが生まれる庁舎

- (1) コミュニティ施設機能 ※
- (2) 議会機能 ※
- (3) 景観・周辺環境への調和 ※
- (4) まちづくり・地域づくり ※
- (5) 地域産材の活用 ※

7. 新庁舎の建築計画 ※

- (1) 敷地条件 ※
- (2) 配置計画 ※
- (3) 構造計画 ※
- (4) 平面計画 ※
- (5) 階層計画 ※
- (6) 設備計画 ※
- (7) 外構及び景観等 ※
- (8) 木質化、木造化の検討 ※

8. 現庁舎跡地の利活用 ※

- (1) 現庁舎跡地の利活用について

9. 概算事業費の算出と財源計画 ※

- (1) 概算事業費 ※
- (2) 財源等 ※

10. 事業方式と事業スケジュール ※

- (1) 新庁舎建設の事業方式の例 ※
- (2) 新庁舎建設の事業方式別事業の流れと役割分担 ※
- (3) 新庁舎の事業方式別のメリット・デメリット ※
- (4) 新庁舎の事業方式の選択 ※
- (5) 新庁舎の事業スケジュール ※

巻末資料

- ※※※※※※※※※※ ※
- ※※※※※※※※※※ ※
- ※※※※※※※※※※ ※

2. 現状と課題の整理・新庁舎の必要性

(3) 各種計画との関連性

① 第六次会津坂下町振興計画後期基本計画（以下「後期計画」という。）

令和6年度に後期計画が策定され「第4章 基本計画」の中に「役場庁舎の建設」が位置付けられております。災害時には防災拠点としての機能を果たすとともに、分散している行政機能を集約することにより、行政サービスの向上や町民にとって利便性の高い新庁舎を早期に建設することとしています。

② 会津坂下町都市計画マスタープラン（以下「都市マス」という。）

上記の会津坂下町振興計画の都市環境分野の目標を、より具体的に実現するための計画です。

平成29年4月に策定された「都市マス」では、庁舎等公共施設の耐震化等を図るなど防災拠点としての施設整備を図ることとなっています。

③ 会津坂下町地域防災計画

災害対策基本法及び会津坂下町防災会議条例に基づき、会津坂下町防災会議が作成する計画であり、国・県と連携した会津坂下町の地域防災に関する計画です。

その中で、役場庁舎は震災時の避難誘導及び情報伝達、救助等の防災業務の中心として「防災上重要な建築物」に位置付けられており耐震性の確保が喫緊の課題となっています。

また、災害発生時の応急対策等の実施や優先度の高い通常業務の継続のため、災害時に必要となる人員や資機材等を必要な場所に投入するための事前準備体制と事後の対応力強化を図る必要があることから、業務継続性の確保を図ることとされています。

④ 会津坂下町災害時業務継続計画

大規模な災害が発生した場合を想定し、町が発災時の限られた資源を基に、非常時優先業務を目標とする時間・時期までに実施できるようにするための計画です。

大規模地震の発生により現本庁舎等が損壊した場合、耐震基準を満たし自家用発電機を有する中央公民館に災害対策本部等に移し危機管理拠点とすることとしています。

⑤ 会津坂下町公共施設等総合管理計画及び会津坂下町公共施設等総合管理計画個別計画

厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことの予想を踏まえ、全体の状況を把握し長期的な視点をもって、更新・

複合化・転用及び長寿命化などを効率的に行うため策定するものです。

その中で、新庁舎建設については、災害時の防災拠点としての多くの機能が求められるため最優先の更新が位置付けられています。町の財政状況を考慮すると新庁舎建設と並行して庁舎以外の施設の更新は難しいため、庁舎以外の施設は当面長寿命化をはかり新庁舎建設後に更新することとしています。

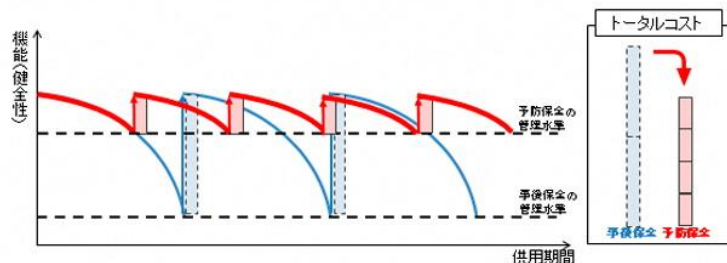
6. 基本性能と導入機能

基本方針④：経済性に優れた庁舎

(1) コストの低減（長寿命化）

- ①窓口機能、執務機能、住民交流スペース、倉庫などの動線を効率化し、共用部の面積を削減し、庁舎の規模を小さく抑えるスリムな施設づくりを目指します。
- ②長寿命の新庁舎とするため、経済的な材料、施設設計や維持管理の選定をし、ライフサイクルコストを抑えます。配線や配管のダクトスペースは、点検や保守などを容易に行えるよう配慮し、汚れにくく掃除のしやすい仕様にすることでメンテナンスや改修が容易になるよう設計します。また、計画的に保全や改修等を行う「予防保全型」の維持管理を推進します。
- ③ZEB^{注1}を見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物 ZEB Ready^{注2}などの取り組みを検討します。
- ④空調計画の省エネ対策として、少人数での残業や休日勤務の場合は会議室や打合せスペース等小規模空間で執務を行う空調室の設置を検討します。また、個人が利用するタスク域に特化して快適な温度や湿度を調整するパーソナル空調を検討します。職員の健康保持と執務空間の快適性が向上するだけでなく、不要な部分の冷暖房を減らすことで省エネにもつながります。

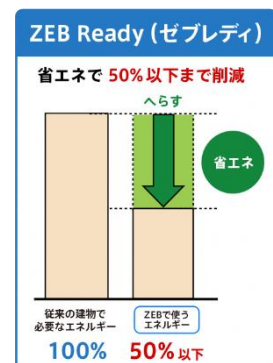
【事後保全と予防保全のサイクル(イメージ)】



予防保全：施設の機能や性能に不具合が発生する前に修繕等の対策を講じること

事後保全：施設の機能や性能に不具合が生じてから修繕等の対策を講じること

(国土交通省)



注1：ZEB（ゼブ）

Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称

快適な室内環境を保ちながら、使うエネルギーを大幅に削減し（省エネ）、再生可能エネルギー設備でエネルギーを創る（創エネ）ことで、建物で消費する年間のエネルギー収支を実質ゼロにする建物

注2：ZEB Ready（ゼブレディ）

将来的な ZEB 化を目指し、省エネ技術で年間のエネルギー消費量を基準から 50%以上削減した建物

(2) 負荷の軽減

- ①断熱・日射遮蔽性に優れた建材や構法、建具、庇等の採用検討により、構造躯体や開口部を通した熱負荷の軽減を図ります。

- ②LED 照明の採用により、照明にかかるエネルギー消費の抑制、空調運転と自然換気をバランスよく制御し、空調にかかるエネルギー消費の抑制に取り組みます。
- ③低炭素のまちづくりを推進し、省エネルギー対策の徹底や省資源に配慮した製品や設備を活用に加え、太陽光発電・雨水貯留を利用した建物の冷却、屋上や外壁への緑化などの自然エネルギーの有効活用などによる環境負荷を低減した庁舎を目指します。

基本方針⑤：町民が集い賑わいが生まれる庁舎

（３）景観・周辺環境への調和

- ① 新庁舎は、町のシンボルである「菊」「桜」「うぐいす」のほか、町の四季折々の景色や、町の歴史と調和したデザインとします。
- ② 周辺の街並みや自然環境との調和、魅力や地域資源をさらに生かすこと等を踏まえたデザインとすることで、町民に親しまれる施設とします。
- ③SDG s 11^{注3}を目標に、地域が持つ固有の景観資源を掘り起こし、町民が主体的に関わる景観づくりを進めることで、多様な個性が共存する持続可能なまちづくりを目指します。

注３：SDG s 11

SDG s の目標 11「住み続けられるまちづくりを」

誰もが安全・安心に暮らせて、災害に強く、環境にも配慮した持続可能な都市をつくるという目標



会津坂下町の花：菊



会津坂下町の木：桜



会津坂下町の鳥：うぐいす

（４）まちづくり・地域づくり

- ①協働のまちづくりの拠点として、情報発信・提供機能や町民交流スペースを設け、閉庁後も町民に開放します。
- ②町政への町民参画がしやすい議会機能を整備し、使いやすい議場やスムーズな議会運営が行えるように動線を考慮した整備とします。
- ③SDG s 8^{注4}を目標に、障がい理解促進及び、障がい者就労支援として、障がい者の方々が作ったパンなどの販売を検討します。

注４：SDG s 8

SDG s の目標 8「働きがいも経済成長も」

安定した経済成長を進め、誰もが人間らしく生産的な仕事ができる社会をつくるという目標



交流スペース
(会津美里町)



売店
(会津美里町)



フリースペース
(会津美里町)

(5) 地域産材の活用

地域産材を活用し、町民が親しみやすい庁舎とします。また、地域産材の活用により、間接的に地域経済の活性化を図り、町に賑わいを創出します。

7. 新庁舎の建築計画

(1) 敷地条件

所在地	福島県河沼郡会津坂下町字逆水 50 番地 1	
用途地域	第一種住居地域 ※第二種住居地域に変更予定	
建ぺい率	60%	
容積率	200%	
前面道路	南側：町道坂下南幹線 幅員 19.0m 東側：町道勝大線 幅員 8.5m～15.0m 北側：町道中岩田2号線 幅員 9.0m 町道惣六線 幅員 12.0m 西側：町道逆水線 幅員 6.0m 町道逆水南線 幅員 6.0m	
防火指定	指定なし（22条区域）	

(2) 配置計画

新庁舎の基本的な考え方や町民の方々のご意見を整理し、町民や職員の利便性、新庁舎と周辺の公共施設との機能的な連続性、周辺環境との景観形成などに配慮した建物配置の検討を行います。

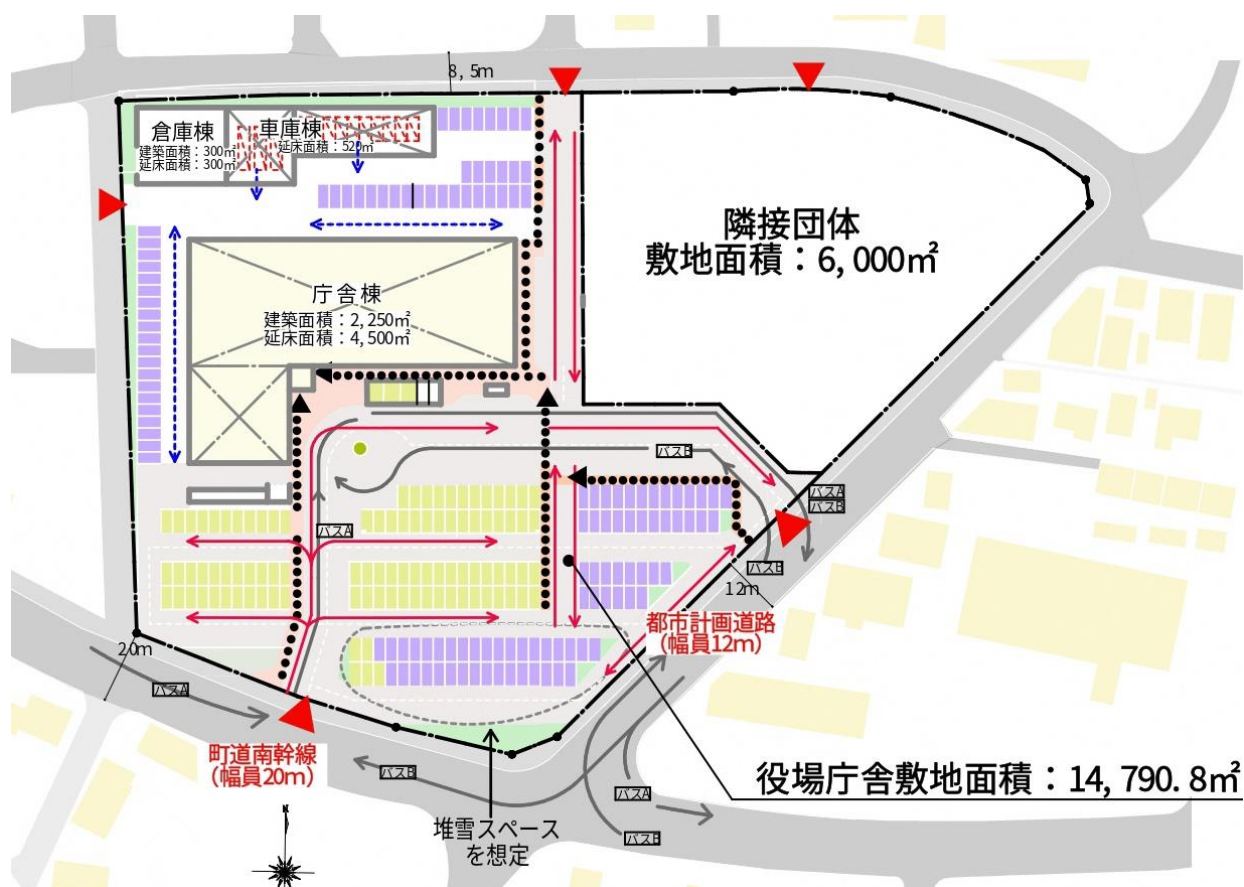
①配置計画の比較

	庁舎西側配置案	庁舎東側配置案
配置イメージ		

	庁舎西側配置案	庁舎東側配置案
<p>基本理念①</p> <p>町民の安全を守る</p> <p>防災拠点機能</p>	<p>●南側駐車場に広いスペースを確保できる。また庁舎との連携が取りやすく、防災拠点としての機能充実が図りやすい。</p> <p>●出入口が幅員 20mの町道南幹線側になるため、災害時の大型車乗り入れも容易である。</p> <p>評価：◎</p>	<p>●災害時に倉庫の有効活用がしやすい。</p> <p>●出入口が幅員 12mの都市計画道路側になるため、災害時に通行できない可能性があり、その場合は隣接団体敷地側の南幹線出入口を活用する必要がある。</p> <p>評価：○</p>
<p>基本理念②</p> <p>来庁者に優しい便利で分かりやすい庁舎機能</p> <p>(行きやすさ、分かりやすさ)</p>	<p>●南幹線から見えやすく、認知性・象徴性が高い。</p> <p>●主要な敷地内道路を境界に、役場と隣接団体に分かれていて、敷地が明確である。</p> <p>●メイン出入口が町道南幹線のため、混雑や渋滞が発生する恐れがある。</p> <p>評価：○</p>	<p>●庁舎が南幹線から見て奥地にあるため、見えにくく、メイン出入口が認知しにくい。</p> <p>●メイン出入口が都市計画道路のため、スムーズに出入りしやすい。</p> <p>評価：○</p>
<p>基本理念③</p> <p>効果的で利用しやすい行政機能（使いやすさ、庁舎内機能）</p>	<p>●主要な敷地内道路が役場敷地内にあり、道路の維持管理、除雪がしやすい。</p> <p>評価：○</p>	<p>●南幹線からの敷地内道路が隣接団体敷地にあるため、道路維持管理に協力・調整が必要。</p> <p>●庁舎裏側に公用車及び職員駐車場を集約でき、管理部門スペースが明確。</p> <p>評価：○</p>
<p>基本理念④</p> <p>経済性に優れた庁舎機能</p>	<p>●北側用地 2,400 m²を取得せずに必要駐車台数を確保できる。</p> <p>●外構工事等の費用に、両案の大きな差はない。</p> <p>評価：○</p>	<p>●北側用地 2,400 m²を取得せずに必要駐車台数を確保できる。</p> <p>●外構工事等の費用に、両案の大きな差はない。</p> <p>評価：○</p>
<p>基本理念⑤</p> <p>町民が集い賑わいが生まれる</p> <p>庁舎機能（情報発信、町民交流、議会参画）</p>	<p>●南側の広いスペースが全て役場敷地内のため、町のイベントに活用しやすい。</p> <p>評価：◎</p>	<p>●隣接団体と駐車場を共有すれば南側に広大なスペースができ、双方のイベント等に活用しやすい。</p> <p>評価：○</p>

	庁舎西側配置案	庁舎東側配置案
総合評価	<p>敷地の南側に役場敷地として南幹線出入口を含めた広大なスペースを確保できるため、防災拠点機能が高い。</p> <p>また敷地内道路を境界として役場と隣接団体の敷地が明確に分かれており、除雪を含む道路維持管理等での将来的な不安がなく、緊急時の対応も図りやすい。</p> <p>評価：◎</p>	<p>町と隣接団体の敷地の共同利用により敷地南側の広大なスペースを活用することが可能。</p> <p>庁舎裏側に公用車及び職員駐車場を集約でき、管理部門スペースが明確で利用しやすい。</p> <p>評価：○</p>

②配置計画検討



配置計画のイメージ

- ・敷地西側を役場庁舎建設地、東側を隣接団体事務所棟建設地として各施設を配置し、敷地内へは南側・東側・北側の三方からのアプローチが可能です。（西側は主に管理用進入口として利用します。）
- ・また庁舎と隣接団体敷地の相互往来も可能です。

- ・敷地外からの排雪を考慮し、敷地中央に通路を配置、駐車場の南端に堆雪することを想定しています。
- ・役場の駐車場を活用すると、南側に広いスペースを確保することが可能であり、災害対応スペースやイベントスペースとして利用できます。

(3) 構造計画

① 構造種別

鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造もしくは各混構造などが想定されますが、町民の安全安心を確保する防災拠点として建物自体に十分な耐震性能を備えた構造とし、災害時には対策本部としての指揮命令が十分機能できる施設とします。またコスト面や環境面など総合的に検討し決定します。

構造	耐久性	耐火性	耐震性	環境	工期	経済性
鉄筋コンクリート造	◎	◎	◎	○	○	△
鉄骨造	◎	○	○	○	◎	○
木 造	○	△	○	◎	◎	◎

凡例：◎特に優れている ○優れている △やや難点がある ×難点がある

② 耐震性能

耐震安全性の目標は、大地震発生後、利用者に対する人命の安全確保、構造体を補修することなく建物の即時利用ができることとし、特に災害対策の指揮および情報伝達、救護、消火活動等の災害応急対策活動に必要な官庁施設として役割が果たせるよう配慮する必要があります。具体的には、「官庁施設の総合耐震計画基準（国土交通省）」に規定される耐震安全性「Ⅰ類」（建物に作用する地震力を一般的な建物の設計に比べて1.5倍以上）を有する構造計画を基本とします。

「官庁施設の総合耐震計画基準」では、人命の安全確保や官庁施設の機能確保を目的として、耐震安全性の目標を次表のように定めています。

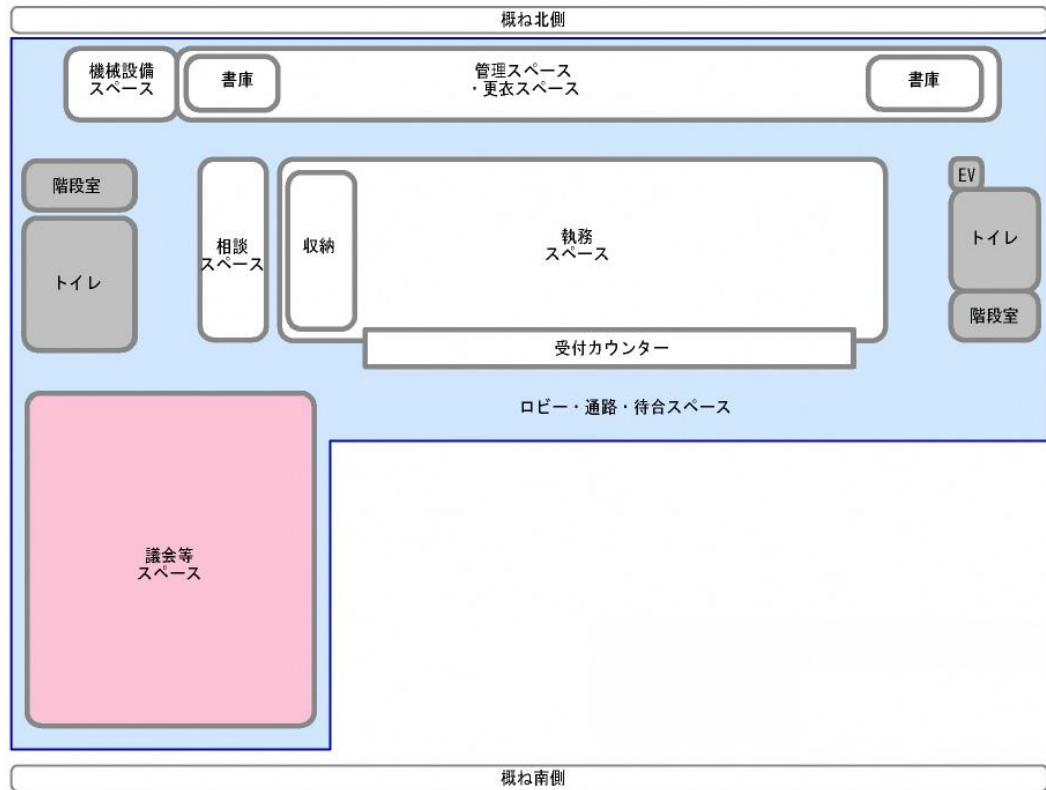
新庁舎は、構造体（柱・梁・床など）は「Ⅰ類」、建築非構造部材（天井材・間切壁・外壁外装材など）は「A類」、建築設備は「甲類」に相当する耐震性能を持たせる方針とし、災害対策活動の拠点施設として備えるべき耐震安全性を目標とします。

〔官庁施設の総合耐震計画基準（一覧）〕

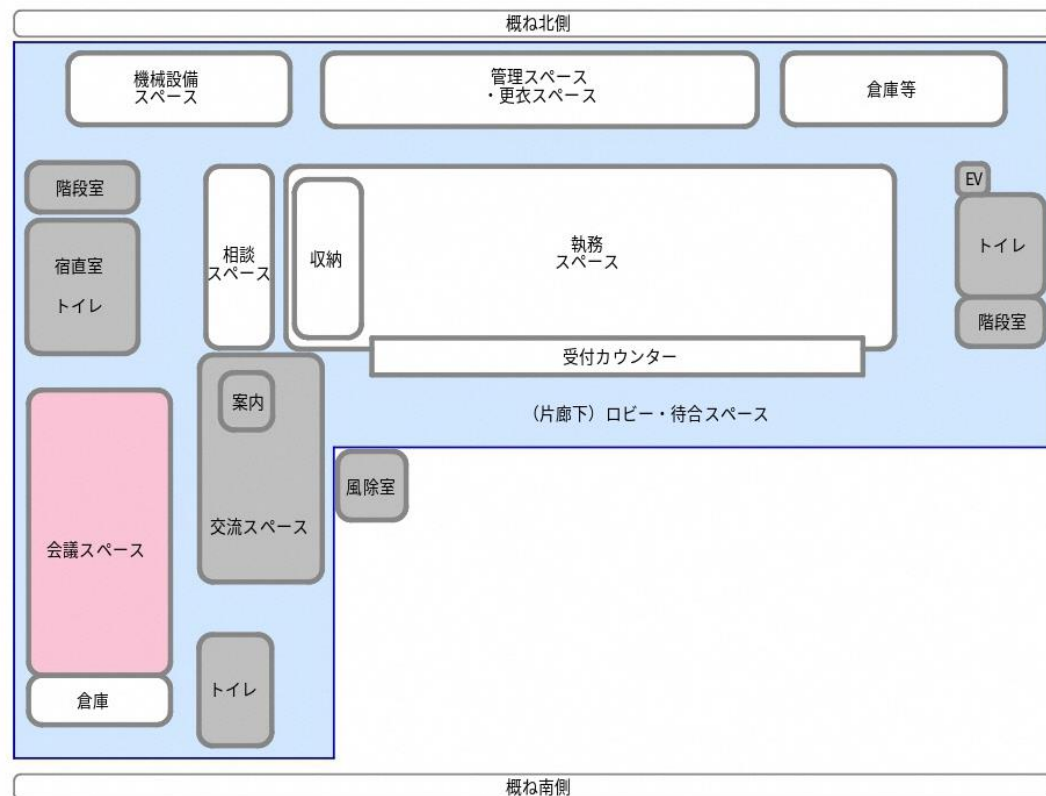
部位	分 類	耐震安全性の目標
構 造 体	I 類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。 【重要度係数：1.5】
	II 類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。 【重要度係数：1.25】
	III 類	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られるものとする。 【重要度係数：1.0】
建築非構造部材	A 類	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。
	B 類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とする。
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できることを目標とする。
	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。

※新庁舎の耐震安全性の目標は、太枠内分類を目指します。

(4) 平面計画



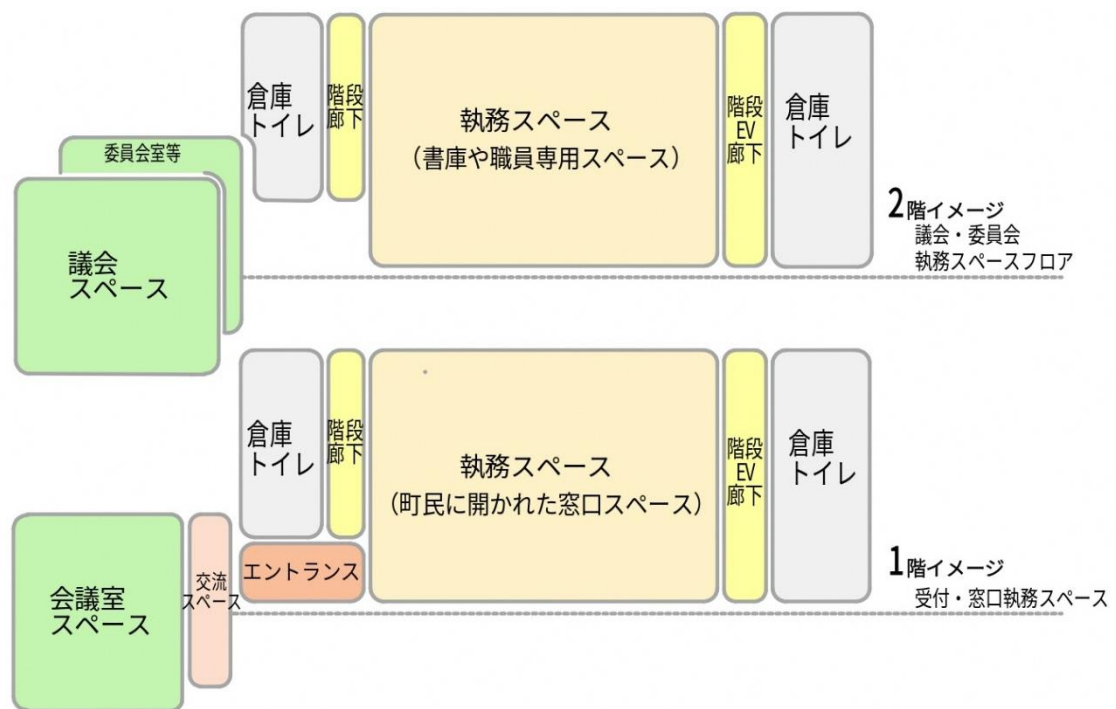
2階平面計画の概要図



1階平面計画の概要図

- ・敷地の有効利用を図るため2階建てのL型庁舎を想定します。両サイドに階段、トイレ等を配置した「サイドコア」型庁舎とします。
- ・南側に来客者専用スペース、庁舎中央にまとまった形で執務スペースを配置し、庁舎内の分かり易さと行政機能の効率化を図ります。
- ・職員専用スペースを北側にまとめて配置することで職員のリフレッシュ空間やバックスペースを効率よく配置することとします。
- ・庁舎西側1階には町民の利用も可能なスペース、会議室を配置。行政庁舎のみではなく、町民の方々の協働スペースとしての機能も果たします。
- ・庁舎西側2階には議場及び議会関連スペースをまとめて配置します。また、町民の方々が傍聴しやすい開かれた議会となるよう工夫します。

(5) 階層計画



(6) 設備計画

< 電気設備 >

- ①行政サービスの中心施設であり、交流拠点でもある役場庁舎として、安全で快適な内部空間、機能的で効率的な執務空間に適した電気設備計画とします。
- ②災害時、非常時における最前線拠点として停電時においても自家発電設備等により電力を供給できる機能をもつ役場庁舎とします。
- ③高度情報化社会への対応、省資源・省エネルギーの推進を積極的に進める庁舎とします。

<機械設備>

- ①省エネルギーに配慮し、人と環境にやさしく、さらには安全で安定している機械設備計画とします。
- ②自然エネルギー（太陽光、雨水、自然通風）の積極利用による循環型庁舎を目指します。
- ③地域特性を十分に生かした設備計画と将来の空間用途変更が可能なフレキシブル性を持つ設備計画とします。

（７）外構及び景観等

①外構計画

- ・コスト面への配慮として、地下及び立体式の駐車場ではなく、敷地を有効に利用した平面での駐車場配置とします。
- ・駐車スペースの周囲については積極的に緑化し、周囲との調和を図ります。
- ・駐車場には車止め等の工作物の設置は出来るだけ避け、イベント開催時には、駐車場全体を広場としての利用も可能とします。
- ・３方向からのアプローチ、かつ大型車両の運行も考慮し見通しが良く、安全な外構計画を行います。
- ・多雪地域での庁舎であることを考慮し、随所に空地を配置し、堆雪スペースとします。

②景観計画

- ・会津の山並みに調和したコンパクトでシンプルな２階建ての低層庁舎を想定します。
- ・自然に恵まれた環境、自然に溶け込んだ庁舎の色彩計画とします。
- ・メンテナンス性も考慮しつつ敷地内の緑化を行い、周辺環境に潤いを感じさせます。
- ・車庫・倉庫棟を北側に配置し、多くの来庁者が想定される交差点方面からの視線に配慮します。
- ・庁舎は南幹線から見える位置に配置し、シンボル性と安心を感じさせるイメージとします。

（８）木質化、木造化の検討

- ・循環型社会の構築や地球温暖化防止に貢献するため、建築費や維持管理費に留意した上で、木造化・木質化の庁舎についても検討します。内装の木質化や木材を用いた備品・什器の整備に取り組み、木材の活用にあたっては、県産木材を優先的に利用します。
- ・本計画においては、鉄筋コンクリート造と木造を組み合わせた混構造も選択肢に含め、必要な耐火性、耐久性を確保しながら、木造化・木質化を検討します。木造化、木質化の詳細については、設計段階での計画内容に応じて検討を行い、決定します。

10. 事業方式と事業スケジュール

(5) 庁舎の事業スケジュール

今後の事業スケジュールは次のとおりです。なお、事業方式決定後、個々の業務スケジュールの調整を行います。

建築設計者選定においては、プロポーザル等の実施を視野に入れ、発注準備を進めます。

本計画を踏まえ内容の具現化を進め、新庁舎に求められる機能性や整備手法について、調査検討を進めつつ、幅広い手法をもって町民の方々からご意見をお聞きしながら基本設計を進めていきます。

各事業段階において適切に公表を行い、新庁舎建設が町民にとって分かりやすく、身近な事業となるように努め、令和9年度の建設工事着工、令和11年度の新庁舎完成を目指します。

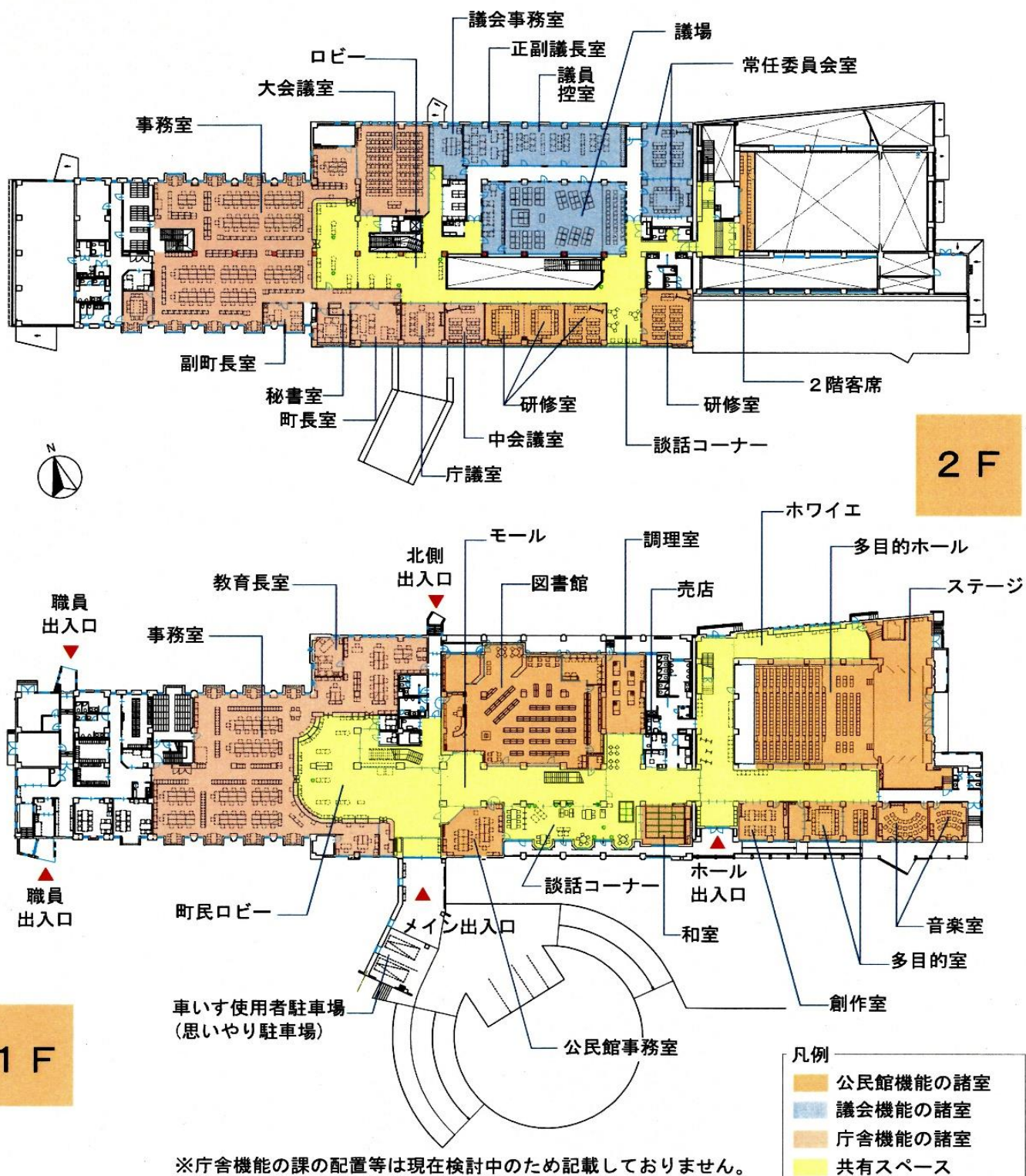
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
調査 計画	基本的な方針	基本計画策定				
設計 監理			【従来発注型】 基本設計	【従来発注型】 実施設計		
施工					工事監理	
移転					建設工事	引越

庁舎
移
転

※ 解体等のスケジュールは含みません。(完成後概ね10か月程度を要します。)

会津美里町役場 平面図

資料4



各室の特徴

<モール>

様々な居場所が連続するモールは、訪れる人々の多様な賑わいを創出します。

<談話コーナー>

気軽に立ち寄り、多目的に利用できる町民交流スペース。

予約なしで利用でき、簡単な打合せや勉強など自由に利用できる空間。

<音楽室>

防音に配慮した室。ホール利用時は、控室としても利用できます。

<研修室、会議室>

機能を共有し、多目的に使用できます。

